

衆議院議員

木原せいじ

国会活動報告書

せいじ便り 23号

揺るぎなき挑戦!!



今、自民党は？

内閣支持率が軒並み10%そこそこの状況にあるように、**信頼を失っています**。麻生総理は、「国民は、自民党には**不信**、民主党には**不安**を感じている」と発言しています。しかし、「不安だけれど、試してみよう」とはなりません。が、「不信」は、信頼できない、誠実さを感じない、もはや**好き嫌いのレベル**です。世の中の全ての仕組み、経済も教育も家庭も、「信頼」がその根底にある、そこが崩れたら、何事もまわっていきません。

英国労働党政策から学ぶ、「結局、世代交代」

一度崩れた信頼を取り戻すには、膨大なエネルギーが必要ですが、そのエネルギーはどこから出てくるか、結局、**世代交代**、そして、**真摯に政策を追求する姿勢**しかありません。**英国労働党の再生**がよい例になります。私が英国大蔵省勤務中にお仕えした**ゴードン・ブラウン大蔵大臣**（現在、英国首相）から、よく聞いた話ですが・・・。

英国労働党は、1979年の選挙で、サッチャー元首相率いる保守党に敗北して以来、83年、87年、92年と連続4回選挙に敗北しました。特に、92年の選挙は、サッチャー首相退陣後初の選挙で、労働党の勝利が確信されていたのに敗れ、党内に衝撃が走りました。

そこで、党内若手にモダナイザー、日本語で言えば「**党近代化グループ**」が形成されました。そのリーダー格が、後のトニー・ブレア首相であり、同じく首相となるゴードン・ブラウンでした。若手を糾合し、伝統派といわれるベテランからも仲間をつのりながら、**党の再生を模索**しました。

彼らのとった道は、二つ!!

①**二重の差別化**…選挙相手である保守党との

政策の差別化、そして、伝統的労働党の政策との差別化

②政策形成のための徹底した討論

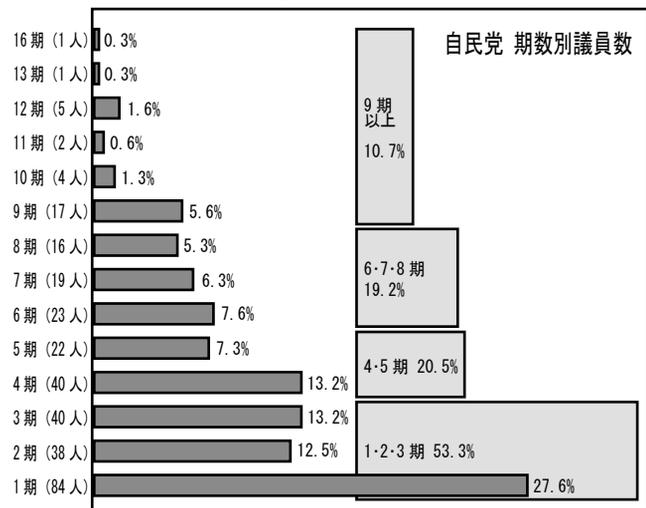
この結果、95年には、労働党の党綱領の柱であった「**国有化条項**」の**撤廃**にまでこぎつけ、97年の労働党勝利へと結びつけたのです。

実は若い政党

自民党は、年離れた政党と見られがちですが、（左の図を見ていただければ分かるように、）実際は、党所属衆議院議員の**50%をこえる162人**が当選1回〜3回の若手議員が占める、**若い政党**です。過半数を握る若手が結集すれば、党の再生は難しくありません。

その際、党首は誰がいいとか、誰なら選挙に勝てることはいったことは**本質ではありません**。やはり、**政策**です。他の政党とは違う、**政権を任せるにたる政策**を明確に示さなければなりません。

このように、3月 思いで、



■木原せいじ公式
モバイルサイト
<http://kiharaseiji.com/k/>



携帯電話から木原せいじモバイルにつながります。
木原せいじの日々の活動をブログにて公開中。

4日、「1〜3期生の会」を、小野寺五典議員、菅原一秀議員とともに代表発起人として結成しました。数日間山ごもり合宿をするぐらいの気合で、新しい自民党の政策を打ち出していきます。

新たな政策の方向性

今、政界で起こっていることは、**二つの現象**だと思います。第一に、構造改革路線の是非をめぐる論争、第二に、その論争の結果としての**旧来型の「社会主義国家」日本への回帰**です。

そもそも、構造改革は間違っていたのでしょうか。そんなことはありません。不良債権処理、規制改革による民間活力の引き出し、行政スリム化がなければ、我が国は、**官頼みのままで「失われた10年」**から未だに脱却できないでいた可能性が高いと思われれます。しかし、他方で、構造改革に間違いはなかったのか。そんなことはありません。高齢化の影響もあります。格差の拡大は事実ですし、**医療崩壊、地方経済の疲弊も現実**です。

今は、「構造改革に賛成か反対か」といった二項対立ではない、**冷静な議論**が必要です。ところが、野党は、農家の所得保障、子供手当で倍増、高速道路無料化、年金の税金方式などなど、20兆円を遥かに超えるバラマキに傾いています。

社会保険分野では？

例えば、社会保険分野ですが、社会保険は**自助・自立**ではカバーしきれない不測の事態へのセーフティーネットです。そこで、**年金の税方式化**が本当によいのかというところ。誰もが、毎年必ず年齢を積み重ねるわけですから、65歳を見据えて、**公的年金の保険料**を払って受給資格を得る努力をすることは、可能なことです。もちろん、

生活が苦しい場合には、保険料の**免除・減額申請**を求めている。逆に、あくまでも年金の税方式化を追求するのであれば、**生活保護の引き下げ**とセットでなければ意味がありません。

他方で、医療はどうか。どんなに気をつけても**病**

気は防ぎきれません。だからこそ、税金の投入が必要。とりわけ、高齢者とお子さんは、所得が乏しい中で、疾病・発症リスクも高く、**自助・自立が難しい**面があります。であれば、高齢者と小学生までのお子様については、自己負担や保険料負担を思い切って引き下げることが考えられます。

いずれにしても、年金を全額税金でまかねば、15兆円近い新たな財源が必要になりますが、その場合、本当に税金投入が必要な**医療・介護**にまわせる税金の確保が困難になります。

経済分野

経済面はどうでしょうか。成長率が年率で**二桁のマイナス成長**になる危機的状況です。**内需の盛り上げ**が必要です。民需は盛り上がりや欠く状況ですから、国が前面に出ないといけないときです。

だからといって、何でも国がやればよいということではない。例えば、家計の資産保有の状況を見ると、**高齢者世帯が全世帯平均の約1.5倍を保有**しています。この高齢者世帯のストックを、いかに次世代、次々世代に**円滑に引き継いで**内需につなげていくか。もちろん、国がいったん税金で集めて使う方法もあります。しかし、国を経由せずに「**民・民**」の中で移動できればよいはず。

そこで、**贈与税を数年間に限定**して、住宅ローンや自動車ローン、教育ローンなどの**頭金**などに当てる場合などを想定し、上限を定めてゼロにすることも考える必要があります。

いずれにしても・・・

いずれにしても・・・これから、若手の会で議論をし、明るい未来に向けた明確なビジョンを党の政策として打ち出したいと思っています。

木原せいじプロフィール



- ・私立武蔵中学・高校、東京大学法学部卒業
- ・大学時代はテニスで全国選抜3位
- ・平成5年大蔵省(現財務省)入省、主計局、大臣官房、国際局課長補佐、税務署長歴任
- ・その間、英国大蔵省出向(初代)
- ・平成17年9月 衆議院選挙当選
- ・現在、厚生労働委員会、内閣委員会、拉致特別委員会、各委員。党では、国際局次長、青年局次長、女性局次長、学生部参与。
- ・趣味はテニス・ピアノ・散歩。座右の銘「至誠通天」。
- ・著書「英国大蔵省から見た日本」(文春新書)

ボランティアを募集しています!

事務所内における事務、ポスター貼り、各種広報物の配布などお手伝いいただけるボランティアを募集しています。どんな事からでもかまいません。政治に興味があって、木原誠二の政治活動を手伝ってみたいと思われる方は是非ご連絡ください。



国会見学に行きませんか?!

木原せいじ事務所では、随時、国会見学を受け付けています。友達や仲間とお誘い合わせの上、是非ご来館ください。少人数からでもお気軽にご相談いただければ結構です。テレビで報道される国政の生の現場をご案内します。



木原せいじ事務所

■国会事務所 〒100-8982
東京都千代田区永田町2-1-2
衆議院第2議員会館606号室
TEL: 03-3508-7606
FAX: 03-3508-3986

■地元事務所 〒189-0013
東京都東村山市栄町2-22-13
松岡ビル2階
TEL: 042-392-4105
FAX: 042-392-4106



For your smile